

伊能嘉矩没後100年・柳田國男生誕150年記念事業

令和7年度
遠野文化フォーラム

伊能嘉矩

～台湾研究と郷土研究の生涯～

台湾館

伊能は、自宅の離れを増築し「台湾館」と名付けて、台湾から持ち帰った資料を展示公開していた。大正時代の一都市通り

令和7年 10月25日(土)

開演13:30 (開場13:00) (16:00終演予定)

会場／あえりあ遠野 交流ホール

入場料

無料

【要事前申込】

プログラム

第一部 佐々木喜善賞 表彰式

第二部 基調講演 14:15～

「伊能嘉矩と台湾研究」 邱 淑珍

シンポジウム 15:10～

「伊能嘉矩 ～台湾研究と郷土研究の生涯～」

赤坂 憲雄 氏 (民俗学者)

小田 富英 氏 (遠野文化研究センター研究員)

邱 淑珍 氏 (伊能嘉矩研究者)

原 英子 氏 (岩手県立大学盛岡短期大学部国際文化学科教授)

書斎にて、晩年の伊能嘉矩 大正9年(1920) 5月

申込み・問い合わせ (一財)遠野市教育文化振興財団 遠野文化研究センター

〒028-0524 岩手県遠野市新町1-10 遠野市民センター内 TEL 0198-62-6191

■主催: 遠野市 ■共催: 遠野文化友の会 ■主管: (一財) 遠野市教育文化振興財団 遠野文化研究センター

お申込み
フォーム



いのう かのり 伊能嘉矩

～台湾研究と郷土研究の生涯～

伊能嘉矩没後100年、柳田國男生誕150年の節目の年にあたり、本フォーラムは、伊能嘉矩の人類学、郷土研究の功績について講演会やシンポジウムを通して考えていきます。

基調講演

伊能嘉矩と台湾研究 邱淑珍

(きゅうしゅくちん)

シンポジウム

伊能嘉矩 ～台湾研究と郷土研究の生涯～

シンポジウム登壇者プロフィール



赤坂 憲雄 (あかさか のりお)

1953年、東京都生まれ。民俗学者。遠野文化研究センター所長、福島県立博物館長等を歴任(いずれも現在は退任)。『岡本太郎の見た日本』(岩波現代文庫)でドゥマゴ文学賞、芸術選奨文部科学大臣賞を受賞。『異人論序説』(ちくま学芸文庫)、『排除の現象学』『東北学／忘れられた東北』(岩波現代文庫)、『東西／南北考』『武蔵野をよむ』(岩波新書)、『性食考』『ナウシカ考』(岩波書店)、『災間に生かされて』(亜紀書房)、『奴隷と家畜』(青土社)など著書多数。



小田 富英 (おだ とみひで)

1949年、東京都生まれ。遠野文化研究センター研究員。36年間東京都公立小学校に勤めた後、作新学院大学特任教授を経て、現在『柳田國男全集』編集委員、日本地名研究所理事、『地名と風土』編集長、常民大学運営委員、『遠野物語』で交流を楽しむ会(『遠野物語』交流楽会)代表。編著「柳田國男年譜」(『柳田國男全集』別巻I)など。



邱 淑珍 (きゅうしゅくちん)

台湾高雄市生まれ。1996年、東京外国語大学大学院博士課程に在学中、伊能嘉矩の研究に目覚める。1997年、初めて遠野を訪れる。以後、『台湾文化志』の意義「伊能嘉矩における人類学への志」などを発表した。2002年、博士課程終了。2008～2013年、国際教養大学で非常勤講師。現在翻訳の仕事に携わる。



原 英子 (はら えいこ)

現・岩手県立大学盛岡短期大学部国際文化学科教授。日本台湾学会員、順益台湾原住民研究会員ほか。『台湾原住民研究概覧—日本からの視点—』共著(風響社／日本順益台湾原住民研究会編)、『台湾で日本人を祀る—鬼から神への現代人類学』第2章「台湾の日本神をめぐる信仰と観光—高雄の保安堂における歴史の選択と新たな展開」(慶応大学出版会)など。専門は文化人類学、民俗学、宗教学。



7月18日発刊

荻野馨著
『伊能嘉矩論』

遠野市立博物館で
販売しています